（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	泉北わわ

公表日　R8　年　6　月　18　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	スペースを確保できるように工夫している。	利用児童数や活動内容に応じてスペースを有効活用し、安全で活動しやすい環境づくりを継続していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	9	0	毎日５～７名の職員を配置している。	利用児童の状況や支援内容に応じて適切な職員配置を継続し、より質の高い支援体制の維持に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	賃貸なので、バリアフリー対応できていない。 建物の構造上難しい課題となっている。	賃貸なので、バリアフリー対応できていない。建物の構造上難しい課題となっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	日々の清掃担当だけでなく、月間の清掃も分担して行っている。	清掃や整理整頓を継続し、子どもが安心して快適に過ごせる環境を維持していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	その時の状況に合わせて、2階の和室等も使用している。	個々の状況に応じて落ち着いて過ごせる場所を確保し、安心して活動できる環境づくりを継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	日々のミーテイング等の時間を利用して参画している。	PDCAサイクルをより効果的に活用し、職員全員が主体的に業務改善へ取り組める体制を強化する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	結果は職員全員に公表し、課題の改善に向けて話し合っている。	保護者からいただいた意見を継続的に分析し、改善状況についても分かりやすく発信していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	毎日のミーテイングで、ひとりずつ発言する機会を作っている。 職員との面談の機会も作っている。	職員の意見を積極的に取り入れ、より働きやすい職場環境と支援の質の向上につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	8	第三者評価は行っていない。	第三者評価の実施について法人全体で検討し、客観的な視点を業務改善へ活かしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	今年度は外部研修の参加を増やしている。 内部研修も、例年通り実施している。	外部・内部研修を継続するとともに、研修内容を職員間で共有し、支援の質の向上につなげていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	ホームページで公表している。 見学児にも配布している。	不定期の見直しになっているので、今後は定期的にしていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	子ども自身からもニーズを聞き、保護者とは、半年毎に面談を行いニーズを聞いている。アセスメントは随時更新している。	アセスメント内容を定期的に更新し、子どもや保護者のニーズをより的確に支援へ反映できるよう努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	原案は児童発達支援管理責任者が主に作成するが、必要に応じて話し合いをする。その後支援会議を行い共通理解し、検討を行う。	支援会議の充実を図り、多職種での意見交換を通してより良い支援計画を作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	9	0	支援計画は常に確認出来るように一覧にしている。	支援計画の共有方法を工夫し、計画に基づいた一貫性のある支援を継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	脳バランサーキッズを導入し、発達指数の確認にしている。 日々の記録も考慮し確認している。	標準化されたツールと日々の観察を組み合わせ、より客観的なアセスメントに努める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	2	現在は、地域支援・地域連携の項目は設定せず、移行支援として設 定しているが、今後は設定していきたい。	地域支援・地域連携の項目についても 支援計画へ位置付け、関係機関との連携内容をより明確にしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	大まかな活動プログラムの立案は、児童発達支援管理責任者が行っているが、長期休暇のプログラム等は、職員全員がペアを組んで行っている。	職員全員が活動プログラムの立案に関われるよう工夫し、多様な活動につなげていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	その時々の子ども達の姿に合わせて変えるようにしている。	子どもの興味や発達段階を踏まえながら、新しい活動も積極的に取り入れていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	状況に応じて課題も異なるので、個別活動に重点を置いたり、集団 活動に重点を置いたりしているが、どちらも大切な活動だと理解し	個別活動と集団活動のバランスを見直しながら、一人ひとりに適した支援を継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	毎日12:30～職員ミーテイングを行い、その日の活動の役割分担や 情報共有を行っている。	情報共有をさらに充実させ、職員間の 連携を深めながら支援の質の向上を図る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	1	8	退社時間が違うため、支援終了後には打ち合わせは出来ていない。 急を要することはLINE等で連絡し、基本的には翌日のミーテイング時に共有している。	支援終了後の振り返りは難しいため、 情報共有ツールを活用し、より迅速な情報共有体制を整えていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	日々の記録等、支援に関わることは一括保存しているので、検証・ 改善しやすくなった。	記録内容の充実を図り、支援の検証や 改善により活用できるよう努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	半年ごとに見直しを行っている。状況が変った場合は適宜見直しを 行うようにしている。	モニタリングを継続し、子どもの成長や 環境の変化に応じて柔軟に支援計画を見直していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	9	0	出来るだけ組み合わせて支援しているが、地域交流の機会は難しい 課題となっている。	地域交流の機会が少ないことが課題であるため、地域資源を活用した活動や交流の機会を検討し、「4つの基本活動」をよりバランスよく取り入れた支援を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	子どもの意思を尊重し主体的に取り組めるように支援している。 日々の活動の中で自分の意見を言える事を大切に取り組んでいる	子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じて自己選択の機会を増やし、自分で考え、決定する力を育めるよう支援の充実を図っていく。
R8	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	こどもが自己選択できるような支援の工夫がさ	関係機関との連携を継続し、支援内容の 共有や役割分担をより充実させていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要があれば連携している。	必要に応じて関係機関との連携機会を 増やし、切れ目のない支援体制を構築していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	基本的には、保護者のニーズがあれば行っている。 その他、必要に応じて連携をを図っている。	保護者の意向を尊重しながら、必要に応じて学校との情報共有や連絡調整を継続し、より円滑な連携体制の構築に努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1	保護者のニーズに応じて情報気共有や相互理解をしている。	保護者の意向を尊重しながら、必要に応じて関係機関との情報共有を継続し、切れ目のない支援につなげていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	8	基本的に小学6年生までの利用となっているので、直接移行に関わることはないが、卒業後の進路については、保護者学習会で情報共有を行っている。	必要に応じて関係機関への情報提供を行い、保護者への進路に関する情報提供や相談支援の充実を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	9	0	支援センター主催の研修に参加し、他事業所との交流を図っている。	児童発達支援センターとの連携を継続し、助言や研修で得た知識を事業所内で共有し、支援の質の向上につなげていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	地域の学校に登校している子ども達なので、デイ以外での関りは多い。	地域の実情を踏まえながら、地域交流の機会について検討し、子ども同士の交流を広げられるよう努めていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	9	打診はしているが、自立支援協議会への参加は認められていない。	参加の機会が得られるよう引き続き働きかけを行い、地域との連携強化や情報収集に努めていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	日々の様子を伝えるだけでなく、気になる姿が見られた時にはすぐ に連絡を入れている。	日々の情報共有を継続するとともに、 保護者との信頼関係をさらに深め、共通理解を図っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	研修案内の情報提供は、行っている。	て、より多くの保護者が参加しやすい方法や内容を検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時に説明している。資料を見やすくする等、更に工夫していき たい。	資料の見やすさや説明方法を工夫し、より分かりやすい説明ができるよう改善を進めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	意向確認の仕組みは定着しきた。	引き続き、子どもや保護者の意向を丁寧に確認し、支援計画へより反映できるよう努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	9	0	丁寧な説明を心がけたい。	専門用語をできるだけ避け、保護者が十分理解・納得したうえで同意を得られるよう説明方法を工夫していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	半年毎の面談だけでなく、いつでも相談に応じられるような関係つくりを大切にしている。	相談しやすい環境づくりを継続し、必要に応じて関係機関とも連携しながら支援を充実させる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	1	昨年度は保護者研修会を行った。その後の時間を利用して保護者交流 会を行ったが。きょうだい同士で交流する機会は設けていない。	保護者交流会は実施しているが、きょうだい同士が交流できる機会は設けられていない。今後は保護者のニーズを把握しながら、交流の機会について検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	出来るだけ迅速に対応するようにしている。	相談内容の記録や対応方法を職員間で共有し、継続的で一貫した対応ができる体制を強化する
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	行事予定や連絡事項等は、その都度添付している。	今後も保護者が必要な情報をタイムリー に受け取れるよう、通信やホームページ等を活用し、分かりやすい情報発信に努めていく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	今後も定期的な確認をし、研修等も取り入れていく。	個人情報保護に関する意識を継続して 高め、定期的な確認や研修を実施し、適切な管理を徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	AIも利用し、工夫しながら情報伝達を行っている。	一人ひとりの障害特性や家庭状況に応 じた情報伝達方法を工夫し、より分かりやすく確実な情報提供に努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	9	最も改善が期待される項目。自治会の総会には 年に2回参加している。	地域に開かれた事業運営を目指し、地 域行事への参加や地域住民との交流機会を増やせるよう、実施方法を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2	防犯マニュアルは、R8.6に策定した。	防犯マニュアルの周知とともに、各種マニュアルについても定期的な見直しや実践的な訓練を継続し、緊急時対応力の向上を図る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	必要な訓練等は行っている。今後も見直しを続 けていきたい。	業務継続計画（BCP）の内容を定期的に見直し、実践的な訓練を継続することで、災害時等の対応力向上に努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	対象児童の状況は把握できている。保護者への確認を定期的に行い たい。	保護者への定期的な確認を継続し、児童 の健康状態の変化を速やかに把握できる体制づくりを進めていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	4	保護者を通して対応している。	医師の指示内容や保護者との情報共有を継続し、必要に応じて対応方法を見直しながら安全な支援に努める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	マニュアルは作成済み。実践的な訓練を継続する。	安全計画に基づいた研修や訓練を継続し、実践的な内容へ改善を図りながら安全管理体制を強化していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	9	0	定期的に保護者に確認を取っていきたい。	安全計画の内容について、保護者へより分かりやすく周知し、安心して利用していただけるよう努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハットの記入は定着し、共有体制も出来てきた。	ヒヤリハット事例を継続的に共有・分析し 、再発防止策の検討と職員間の共通理解を深めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修機会を確保し、継続的に職員にセルフチェックを行っている。	定期的な研修やセルフチェックを継続し、虐待防止に対する意識の向上と適切な支援の実践に努める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	必要時の説明や計画の記載はできている。	やむを得ず身体拘束を行う場合の手順について職員間で共通理解を図り、保護者への説明や記録を適切に行っていく。